2004 Environmental Report

オプテックスの環境保全活動のご紹介

SENSING

～人と地球の未来を見つめて～

OPTEX

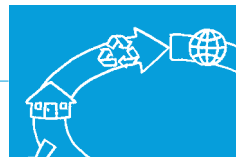
CONTENTS

03 SENSE+ING 1
OPTEXの紹介

04 SENSE+ING 2
OPTEXの事業活動

07 SENSE+ING 3
環境マネジメントシステム

09 SENSE+ING 4
環境への様々な取り組み



15 SENSE+ING 5
社会貢献活動

オプテックスのSENSING
それは未来を創造する“感じる技術”

おいしい水、心地いい音、やさしい風景。
人間は身体を通して五感で環境を認識しています。
大切なのは、その五感を磨くこと、そして、それをフルに活用すること。

産業社会の五感ともいえるセンシング技術を手がける私たちは、
その感覚【SENSE】をいつも磨き、積極的に活動する【ING】こと、
毎日の生活の中で“感じる”ことに
もっと敏感にならなければいけないと考えています。

オプテックスは、
製品をつくるとき、お客様と接するとき、
どんなときもSENSEを働かせ、
人々の暮らしや地球環境を見つめています。

そのこだわりをもっと知っていただくために、
私たちのSENSE、そして＋INGをご紹介します。

SENSE+ING

1

OPTEXの紹介

まずは自己紹介から。オプテックスは、こんな会社です

人や地球を取り巻く環境は、時代とともに複雑になっています。もうみなさんは気づいていますか？
実は目に見えないものほどとても危険で、そして、とても大切だということを。
オプテックスは、人と地球にやさしい未来への創造企業。いつもセンシング技術と環境の調和を考えています。

商　　号	オプテックス株式会社／OPTEX CO., LTD.
創　　業	1979年5月25日
資 本 金	26億6,625万円（2003年12月現在）
連結売上高	151億7,300万円（2003年12月決算期）
従業員数	324名（連結）
決 算 期	12月
事業内容	各種センサ及び同装置に関する各種システムの開発、設計ならびに製造販売

国内事業所

●本　　社　〒520-0101　滋賀県大津市雄琴5-8-12
TEL（077）579-8000　FAX（077）579-7100

●東京営業所　〒160-0023　東京都新宿区西新宿6-14-1
新宿グリーンタワービル19F
TEL（03）3344-6476　FAX（03）3344-5734

国内連結子会社

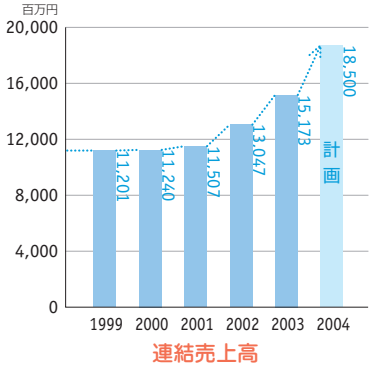
●オプテックス・エフエー株式会社／OPTEX FA CO., LTD.
〒607-8085　京都市山科区竹鼻堂ノ前町46-1
三井生命京都山科ビル8F
TEL（075）594-8123　FAX（075）594-8124

●オーパルオプテックス株式会社／O'PAL OPTEX CO., LTD.
〒520-0101　滋賀県大津市雄琴5-265-1
TEL（077）579-7111　FAX（077）579-8135

海外連結子会社

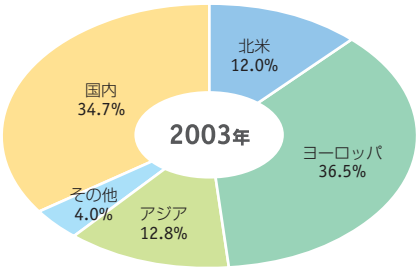
●米　　国　OPTEX INCORPORATED
●英　　国　OPTEX (EUROPE), LTD.
SECURITY ENCLOSURES LTD.
●仏　　国　OPTEX SECURITY SAS
●韓　　国　OPTEX KOREA CO., LTD.
●香　　港　OPTEX (H.K), LTD.
●台　　湾　OPTEX ELECTRONICS (TAIWAN), LTD.

お知らせ:2004年3月の本社移転に伴い、技術センターは本社に統合されました。

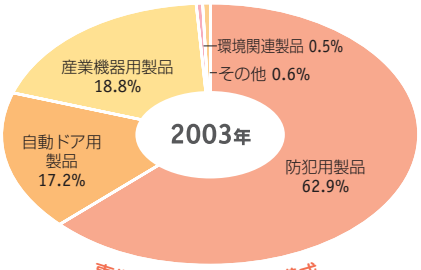


連結売上高

2003年連結売上実績　15,173百万円



地域別連結売上構成



事業分野別連結売上構成

2003年12月末現在

企業理念

未来への創造集団として I.F.C.S の快適生活に挑む。

I=Individual（個人）　F=Family（家族）　C=Company（会社）　S=Society（社会）

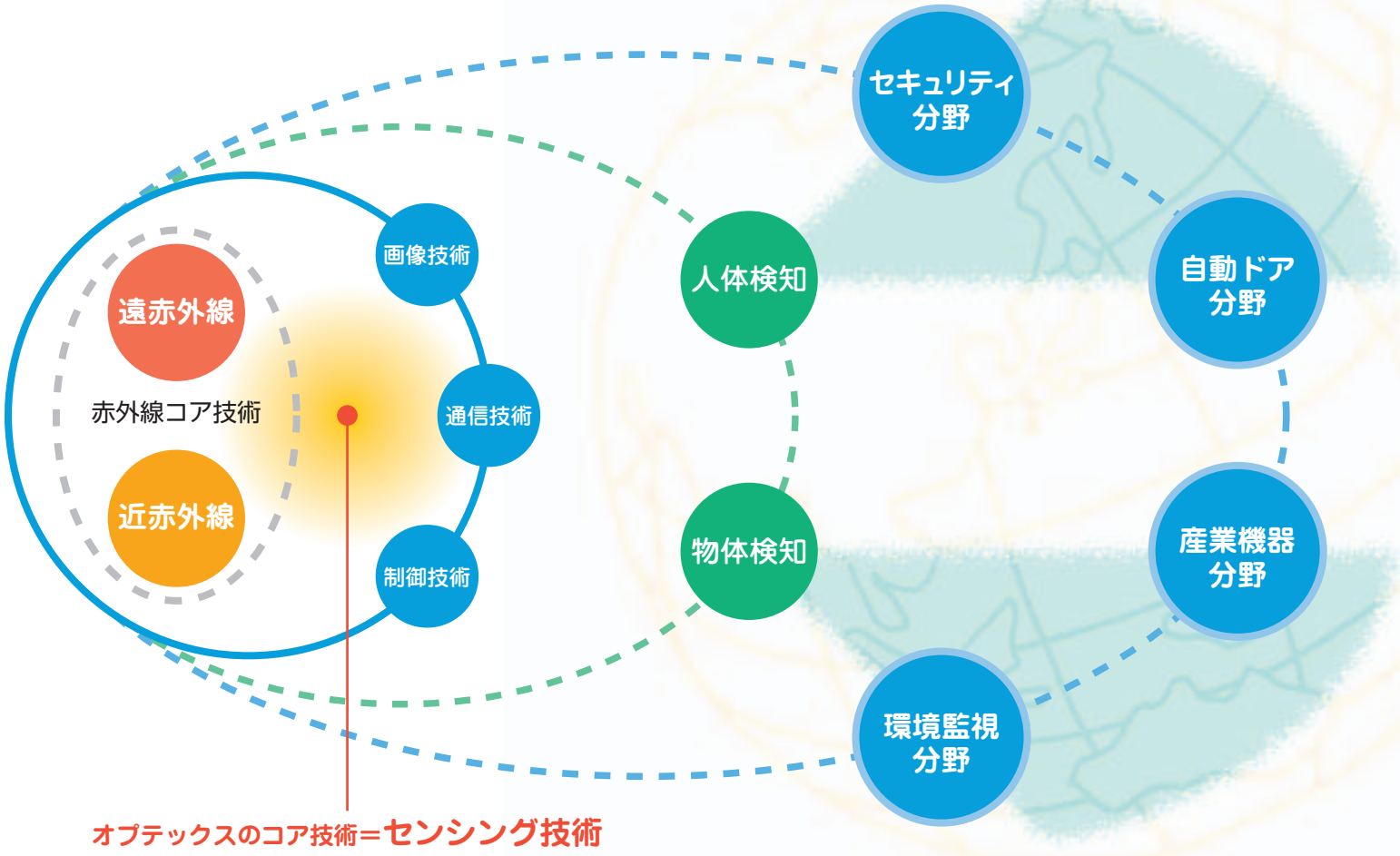
SENSE+ING

2

OPTEXの
事業活動

私たちは目に見えない光「赤外線」の応用技術で社会に事業貢献しています

セキュリティシステムや自動ドアなど、いまや人・街・社会のあらゆるところで重要な役割を担う赤外線。
オプテックスは、この赤外線を利用したセンシング技術で、「安心」、「安全」、「快適」を追求してきました。
中でも、セキュリティ用センサ、自動ドア用センサは世界トップクラスのシェアを確保。
独自のSENSEで未来を見つめ、新たな可能性に挑戦し続けています。



オプテックスのSENSORは、こんなところで活躍しています！

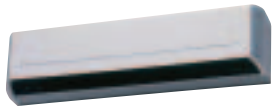
ふだんは目立たないけれど、頼れる“縁の下の力持ち”的存在として、
オプテックスのセンサは身近なところで活躍しています。
ちょっと気をつけてみれば、街のあちらこちらで発見できるはず。その一部を紹介します。

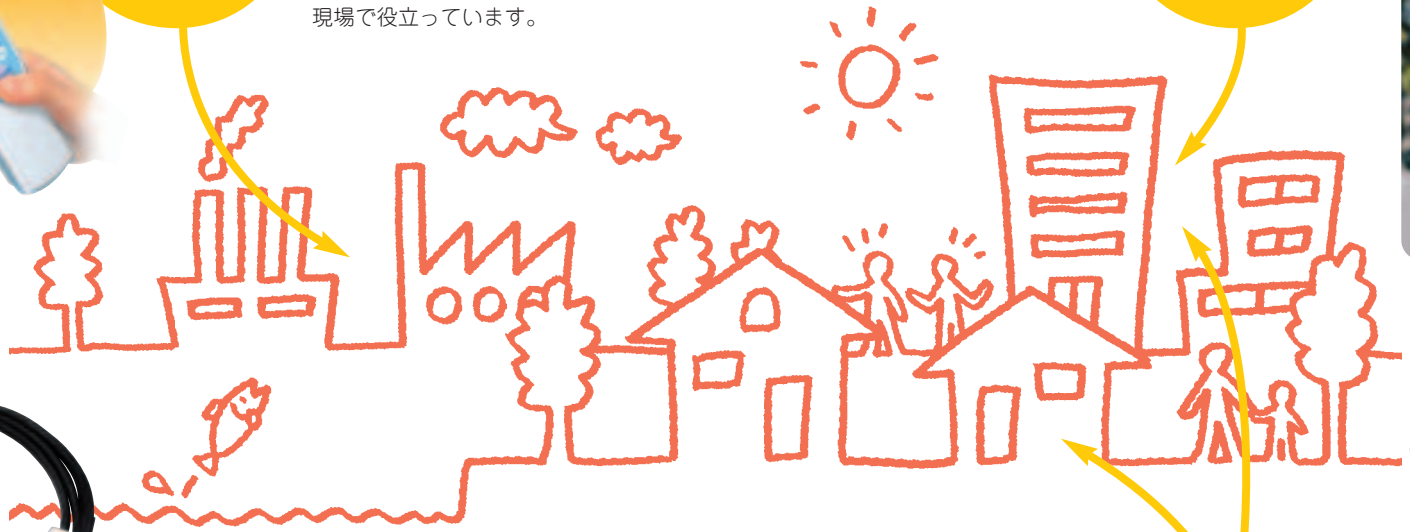
よりよい産業を支援
産業用センサ

工場の自動化に貢献している光電センサ、物体から放射される遠赤外線エネルギーを検知し、素早く簡単に物体の表面温度を測定することができるポータブル型非接触温度計は、多くの生産現場で役立っています。

赤外線方式による汎用性の高い自動ドア用センサです。一人ひとりの動きを確実に検出し、安全で信頼があり、国内外で好評をいただいています。

便利で安全な都市を
自動ドア用センサ





自然環境を見守る
環境監視用センサ

水の透明度を連続モニタするセンサで、琵琶湖などの水質管理に役立っています。
その他、下水道や農業集落排水処理施設等の水質管理にも使用されています。

安全・安心へのニーズが高まる現在、街中で、オフィスで、家庭で当社のシステム・センサが役立っています。
防犯だけでなく、高齢者等のケアサポートにも対応できるよう展開しています。

人の命や財産を守る
セキュリティ用センサ

事業活動をもっと詳しくお知りになりたい方は当社のホームページ http://www.optex.co.jp/ をご覧ください。

私たちは地球環境と真剣に向き合い、調和を考えて行動しています

現代社会は、新しいことや便利なことばかりを追い求めてきました。
そして快適な暮らしを手に入れたけれど、
大切な何かを忘れていたことに気がつきました。
それは、いちばん身近なこと。とても重要なこと。
一人ひとりが意識をもって取り組むことが環境保全の第一歩。
オプテックスは企業として何ができるのかを常に考え、
環境にやさしい製品開発に取り組む一方で、
環境保全に直接役立つ製品の提供、活動の実践を推進しています。

環境方針

我々は未来への創造集団として
『企業活動と地球環境との調和』を基本理念とし
環境にやさしい製品作りを通じて
『豊かな社会の創造』に貢献し
『企業としての社会的責任』を遂行する。

行動指針

1、地球環境の保護を企業経営の最優先課題の一つと認識し、企業活動のあらゆる分野において環境との調和と汚染の予防に取り組みます。
2、固有技術を駆使して、環境ニーズに合致した高質の環境調和型製品、環境創造に寄与する製品を開発し、社会に貢献します。
3、環境関連の法規、法令を遵守し、継続的な環境の改善、向上を推進します。
4、企業活動全般を通じて、資源の有効活用、エネルギー効率の向上及び産業廃棄物の削減とリサイクル化に努めます。
5、地域社会との融和を図り、地域環境の美化、向上の諸策を講じます。
6、環境マネジメントシステムの推進を通じて、全社員の環境意識の向上を図ります。

SENSE+ING

3

環　境
マネジメントシステム

これがオプテックスの環境マネジメントシステムです

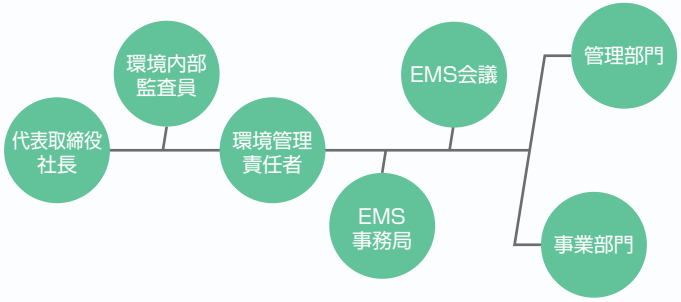
オプテックスでは、「経営理念」及び「環境方針」に基づいた環境保全活動を推進するため、PDCA（Plan-Do-Check-Act）サイクルを活用して、開発・設計段階から環境調和型の製品作りを目指してきました。

1997年に国際規格「環境マネジメントシステム　ISO14001」の認証を取得。これを契機に環境マネジメントシステムの構築をトータルに推進し、リサイクル・省エネルギーを考慮した製品開発や資源の有効活用、産業廃棄物の削減などを積極的に取り組んできました。

更に、これらの活動が効果的かつ有効的に機能しているかを環境内部監査で確認を行い、その結果をマネジメントレビューで評価し、活動の見直しを行っています。

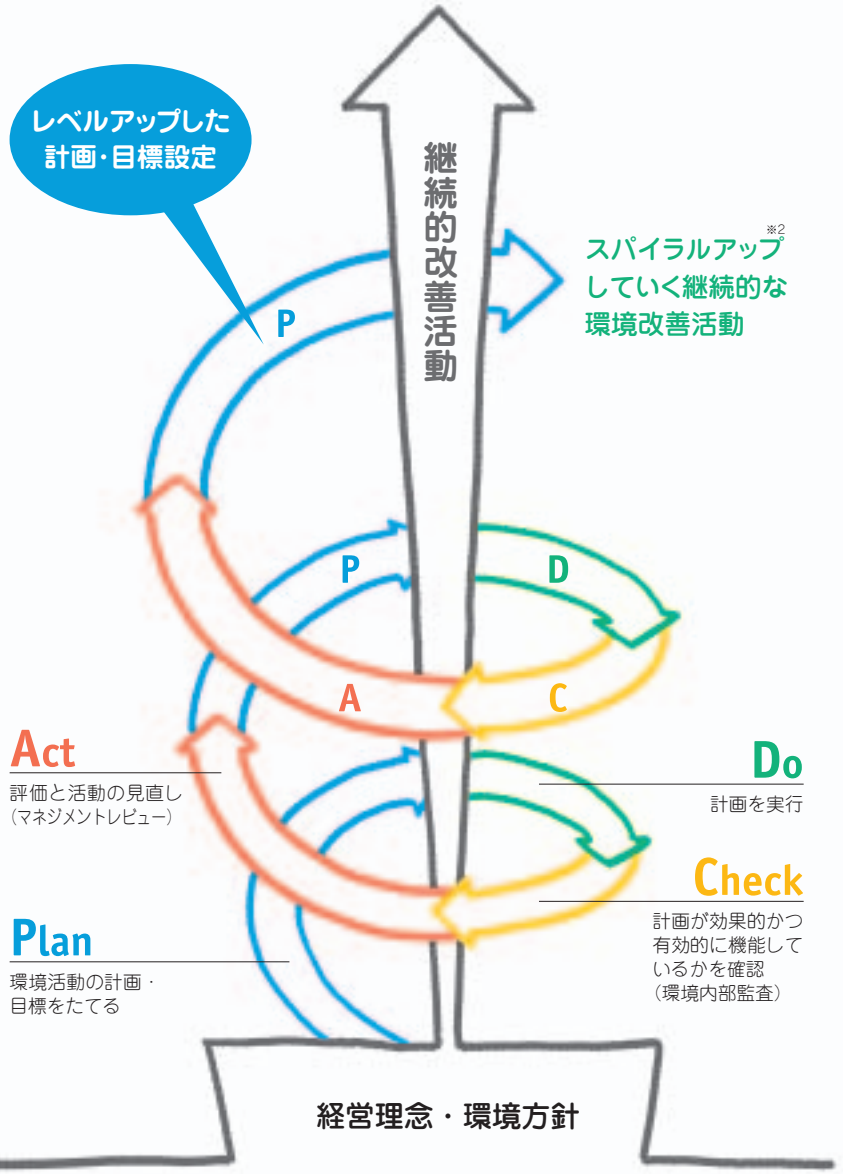
環境管理組織

環境管理責任者のもと、環境保全活動に関わる全社戦略を企画・立案し推進しています。更にEMS[※1]会議では方針・目標など重要事項の決定の他に、各事業部門の活動状況について評価を行い、必要な時は改善の指示を行います。



※1【EMS】Environmental Management Systems　環境マネジメントシステムの略

※2【スパイラルアップ】　PDCAサイクル活動を繰り返して行うことにより、継続的な改善活動を通じて活動のレベルアップを図ること



Plan 中期計画

1997年のISO14001取得以来、持続可能な社会に貢献できる企業を目指して、環境管理活動を実施しております。環境改善活動を計画的に推進するため、中長期目標・年度目標を作成し進捗状況の管理をしています。

中長期目標は3年ごとに見直しを行うことにより、常にオプテックスが進むべき方向を自らに問い続けています。

環境目的	活動目標	目標値
環境調和型製品の開発	製品の有害物質の把握　全製品の有害物質管理と公開できるしくみ作り	2005年12月完成
	製品の有害物質の廃止　全販売商品（仕入含む）の鉛フリー化（OEM売品除く）	2006年6月　全製品対応
	環境配慮製品の拡充	対応機種数／販売機種数（小分類単位で集計） 2006年度　全製品の70%
	製品LCAの実施　製造工程、輸送工程を含むLCAの実施	2006年度　100% 対応機種数／対象機種数
	部品のグリーン調達	2005年度　調達実施
廃棄物の削減	産業廃棄物の削減	2006年度　埋め立て廃棄物量を全廃棄物量の10%以下にする
省資源の推進	コピー用紙使用量の抑制	2002年度の売上比率を維持
省エネルギーの推進	公共エネルギー使用量の抑制	電力:2002年度の対売上比率を維持 水道·ガス:2002年度の実績を維持 水道：8.2千㎥以下（2002年度実績） ガス：37千㎥以下（2002年度実績）
地域環境への貢献	自主奉仕活動の実施	参加及び実施件数　年度毎に設定

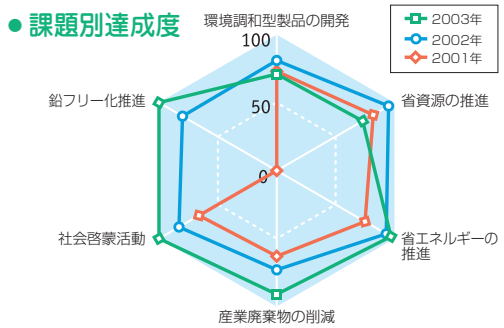
Do

実行内容

▶ 9ページ～14ページに掲載

主な目標と達成状況です。当年度の全体計画の達成率は今一歩という結果でしたが、前年対比では6%UPとなりました。未達成項目については2004年度達成に向け、重点課題として取り組みます。

●課題別達成度



Check 環境監査

環境管理システムの効果的な運用や各種環境パフォーマンスの維持、向上を図るために環境監査を実施しています。監査の結果不適事項等対策が必要な課題が発見された部門は、是正処置を実施し、監査員は一定期間後、是正処置が効果的に機能し課題が改善されている事を確認します。このように、一つひとつの問題点を確実に改善していくことがスパイラルアップしていく原動力と考えています。

●環境内部監査

各部門に対し年一回環境監査を実施しています。監査員は社内で定められた「環境内部監査員研修」で養成され、2003年12月時点で7名が資格を取得しています。

この監査では、環境マネジメントシステムのレベルアップと社員教育の場として活用しています。

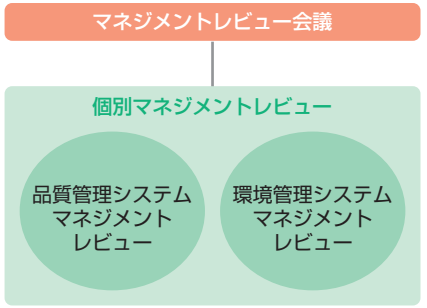
定期的に行われる環境内部監査

●環境外部監査

ISO14001の認証を取得した外部認証機関により、年一回のサーベイランス並びに3年毎の更新審査が実施され、日常の環境改善活動が監査されます。

Act マネジメントレビュー

年2回、経営層による環境管理活動のレビューを実施しています。ここでは社長以下経営層全員と各部門の責任者により、環境管理活動の実施状況、目的・目標の見直し等が行われます。この場で社長の環境管理活動に関するコミットメントが提示され、全社の活動方針と重点課題の決定および部門長に対し直接伝達が行われます。



Do

オプテックスは人・街・地球の環境を見つめています

オプテックスの製品は世界に向けて出荷されています。
私たちは製品そのものの環境付加を低減することが循環型社会を実現するために大切だと考えています。

SENSE+ING

4

環境への
様々な取り組み

環境調和型製品の開発

環境配慮設計のポイント

当社は2001年4月に「製品アセスメント規定」を定め、全製品の環境配慮設計とアセスメントの義務化を行いました。この製品アセスメントは旧製品に比較して環境負荷の低減化を評価することを基本としてます。更に、使用エネルギー削減（省エネ）設計、使用資源の削減（省資源）設計を環境配慮設計のコンセプトとしております。

ライフサイクルを通して製品づくりを行っています

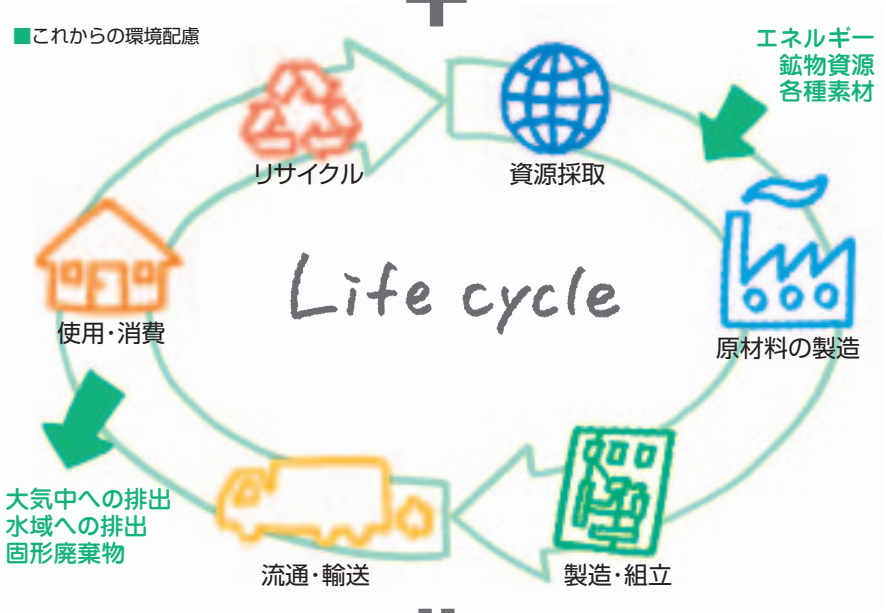
オプテックスは来るべき循環型社会に向けて、従来の省エネ、省資源設計中心の製品開発に加え、原材料調達、製品の製造、流通、利用、廃棄等のライフサイクルにおける環境負荷を低減させる製品作りに取り組んでいます。

2003年度は2002年度の継続活動として、製品の環境配慮の拡大を行いました。再生材の使用拡大（取扱い説明書、梱包材など）、部品の材質名の表記による再資源化促進、小型化、部品点数削減による省資源化を進めてきました。これに加え、工場における加工工数の削減や品質の向上に取り組んでいます。更に在庫と生産数の調整をきめ細かく行うことにより、生産から流通におけるトータル的な無駄の削減にも積極的に取り組みをしています。

【ライフサイクルアセスメント】Life Cycle Assessment（LCA）
製品を製造するための資源の採取から、製造・輸送・使用・保守・回収・リサイクル・廃棄に至るまでの全ての段階において、どのような環境負荷がどの程度あるのかを定量的・客観的に評価する方法。

環境配慮設計

＋



＝

オプテックスの環境調和型設計

●製品開発

オプテックスでは、循環型社会形成を念頭に置き、環境負荷の低減に寄与することを目的とした製品開発を行っております。

安心・安全・快適・品質・コストなどの基本品質性能に加え**Save(セーブ＝省エネ)・Clean(クリーン＝有害物質排除)・Reduce（リデュース＝省資源化）・Reuse（リユース＝再生品の使用）・Recycle（リサイクル＝再資源化）**の環境基本性能の向上を図ることにより、環境面の価値を付けた製品開発を強力に推進しております。

鉛の環境・生態系への影響

鉛とすずの合金材料である「鉛はんだ」は、電気製品内部のプリント配線板と電子部品との接合に標準技術として広く使用され、電気製品には不可欠なものとして私たちの暮らしを支えてきました。しかし、生態系や人体に及ぼす影響が近年指摘されるようになりました。

例えば、鉛は体内に蓄積された場合に、神経障害等を引き起こす物質であることが知られており、特に幼児の体内に入ると、成長障害や知能指数（IQ）低下をもたらすと言われています。

一般的な使用済み電気製品は、破砕後廃棄物として埋め立て地に処分され野ざらしの状態になっています。近年、酸性雨等の影響で鉛を含む廃棄物から、土壌や地下水に大量に鉛が溶けだし、環境を汚染するという問題が出てきました。その結果、生態系のみならず飲料水を通して人体に入り込み中毒症状が起こる危険も指摘されています。

ソーラー型センサライト　LA-30

夜間近づく人を検知して自動的にライトを点灯するセンサです。電源にソーラーパネルを使用し昼間の太陽エネルギーを貯めて夜間に照明として利用する省エネルギーセンサです。

プリント配線板への無鉛はんだ導入の取り組み

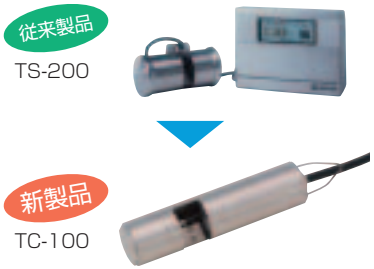
いまや電気製品の無鉛化への移行は、業界を問わず世界中の共通した要求となりました。EU(欧州連合)では廃電気電子機器指令（WEEE）、有害物質使用制限に関する指令（RoHS）という2つの指令が2003年2月13日付けで発効され、2006年7月から指定電気製品への鉛を含む指定6物質※1の使用が全面的に禁止になります。この動きは今や世界各国に広がろうとしています。

当社では2006年度からの製品の無鉛化に向け、本格的な活動を開始しました。2003年度に開発、調達、生産技術からの専門メンバーで構成される「鉛フリープロジェクト」によって無鉛化に向けて障害となる問題点の洗い出しを終え、新製品は2005年度から、既存製品は2004年度から順次移行作業に着手します。加えて製品に使用される有害化学物質の調査活動にも着手しました。私たちはより環境負荷の少ない製品作りを目指し日々活動を続けます。

※1　指定6物質:
- カドミウムおよびその化合物
- 鉛およびその化合物
- 六価クロム化合物
- 水銀およびその化合物
- 特定臭素系難燃剤（PBB、PBDE）

透視度センサ　TP-N3W

水の濁りを検出するセンサです。検出器を全面的に見直しを行うことで、より小型、軽量化を実現しつつ測定分力の向上を実現しました。



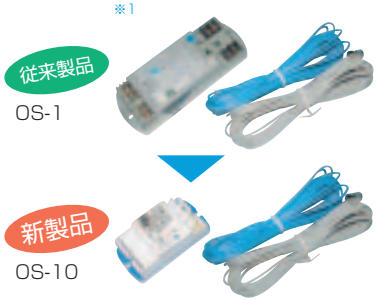
【容積率 センサ部】 70%削減　【部品点数】 40%削減

ワイヤレスセキュリティシリーズ

防犯用の無線式センサです。梱包材には段ボール材を使用し、取扱説明書には再生紙100%使用しています。

自動ドア用ビームスイッチ　OS-10

自動ドアの挟まれ防止用の補助センサです。機能を追加しつつ部品点数の削減に加えて、使用後の廃棄時に分別廃棄が容易にできるように、分解しやすい構造並びに部品の材料表記に取り組みました。※1



【分解時間】 20%削減　【部品点数】 55%削減

※1　表記可能な大きさの部品のみ

「環境保全」も オプテックスの 製品開発テーマです

環境関連製品として、オプテックスが初めて開発したのが『透明度自動測定システム』です。これは、琵琶湖の透明度を連続モニタするシステムで、「自然環境の保護」に貢献しています。

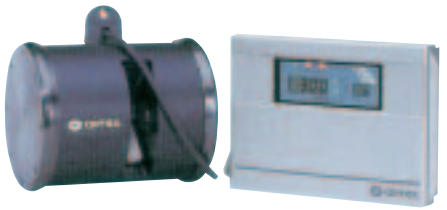
現在の主力製品は、水質管理に役立つ『透視度センサ』と『SSセンサ』。『透視度センサ』は、下水道や農業集落排水処理施設等の管理に使用されています。また、『SSセンサ』は、水中の懸濁物質をモニタリングするセンサで、工場排水の管理等に使用されています。

近年は、ISO14001等の自主管理目標にSS値測定が採用され、オプテックスの製品がご好評をいただいております。

透視度センサ

自然環境保全、農業集落排水、公共下水に貢献

TP-N2W／TP-N3W

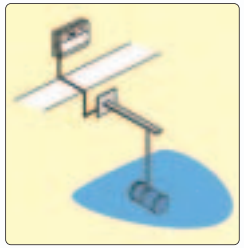


日本最大であるとともに、世界を代表する湖「琵琶湖」。その透明度を見張っているのが『透明度自動測定システム』です。オプテックスは同システムを開発するだけでなく、地域に琵琶湖の保護を呼びかけようと、計測結果をわかりやすい「メートル単位の透明度」で示し、滋賀県庁前と社屋屋上の電光掲示板、びわ湖放送の天気予報等で公開しています。

この技術を応用した『透視度センサ』は、既に500ヶ所以上もの下水道・農業集落排水処理施設等への納入実績をもち、全国の環境保全に貢献しています。

世界で初めて透明度・透視度の連続測定を可能にしたこれらの製品は、使いやすくメンテナンスが容易なことに加えて、遠隔監視などのシステム対応にも優れています。

■農業集落排水処理施設での排水監視



SSセンサ

TS-200

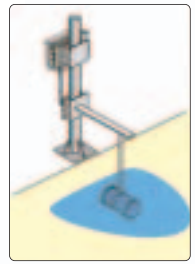
生産ラインごとの排水管理に最適！ コンパクトで高精度、タフな『SSセンサ』

環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001の認証取得に際して、工場排水の懸濁物質（SS）を計測・数値化することは有用です。

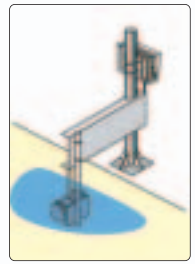
オプテックスの『SSセンサ』は、コンパクトでメンテナンスも容易なので、最終処理場だけでなく、各ラインごとに設置して排水をモニタリングすることができ、より正確な計測と適切な対策を可能にします。また、環境保全用途に限らず、生産管理用途としても役立ちます。たとえば、排水の汚染度や量を知ることで、効率的な生産管理を実現します。

計測精度の高いオプテックスの『SSセンサ』は、今後、全国の工場はもちろん、工事現場等の排水管理などにも大いに活躍することが期待されています。

■工場排水の監視



■公共下水道での排水監視



事業所における環境保全活動

省エネルギー活動

活動内容

石油など「エネルギー資源」の保護と地球温暖化防止策として、休憩時間の照明消灯運動、省エネ事務器への転換、使用増減値の設定（デマンドコントロール）等でオフィスにおける省エネルギー活動を積極的に推進してきました。

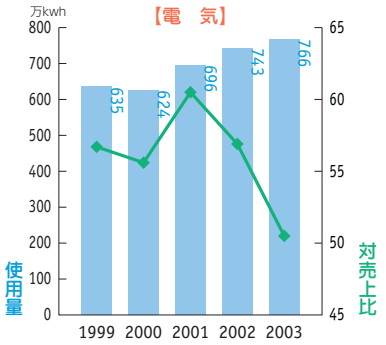
使用電力が契約電力を超えようとしたら、予め決まった順番で機器のスイッチを切ることにより、電気使用量を一定以下にセーブする機器、デマンドコントローラーで、電気使用量を削減しています。

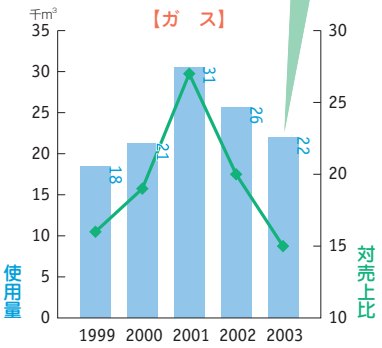
エアコンのスイッチ全てに「エアコン運用基準」を掲示し無駄な冷暖房をしないよう注意を喚起しています。

2003年結果

電気の使用量は、売上高比において対前年度6.4ポイント減、ガス使用量で5ポイント減とそれぞれ削減することができました。

使用量前年比 14%減





省資源活動（上下水道編）

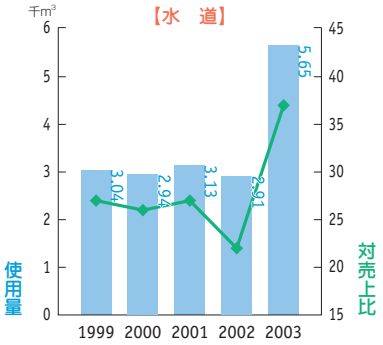
活動内容

水不足や水質汚染問題は世界中で大きな問題になっています。オプテックスでは生命の源である水資源を大切にし有効利用していきたいと考えています。

社内の男子トイレの便器には節水を目的として人体検知センサを設置しました。
一つ一つの活動は大変小さなものです。しかし小さな活動の継続と積み重ねが省資源活動の重要なポイントと考えています。

2003年結果

上下水道使用量は前年に対し2倍に増加しました。これの原因は、本社では設備の老朽化による漏水、技術センターでは埋設管の亀裂による漏水が続けて発生し、加えて破損箇所の特定と補修に手間取ったことが大きく使用量を増加させてしまいました。



省資源活動（コピー用紙編）

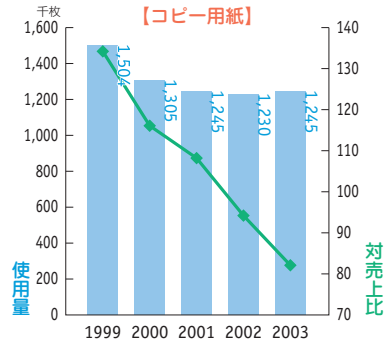
活動内容

製紙に使われる木材は、世界的需要から将来不足する事が確実視されてます。また木材の伐採は地球温暖化を加速させる要因ともなっています。オプテックスでは事業活動に使用する紙の削減を進めるべくオフィスの電子文書化を積極的に推進しています。

コピー用紙使用量の進捗グラフを見えるところに掲示することにより、社員に省資源の意識付けを常に行っています。

2003年結果

コピー用紙の使用量は売上高比において対前年度12ポイント削減することができました。資料の電子化、会議資料の廃止など地道な活動の効果が現れてきた結果と考えています。

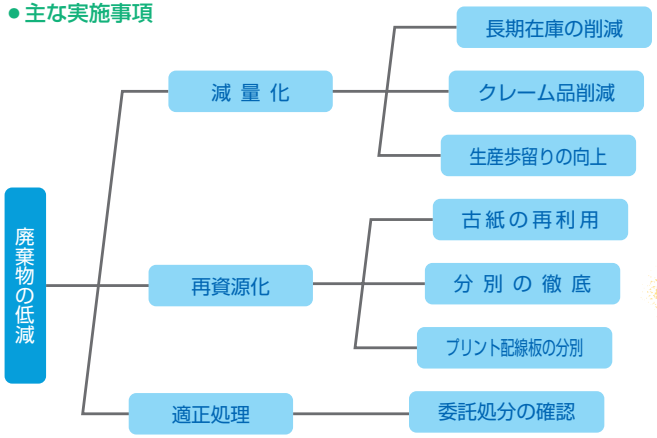


廃棄物を低減する活動

活動内容

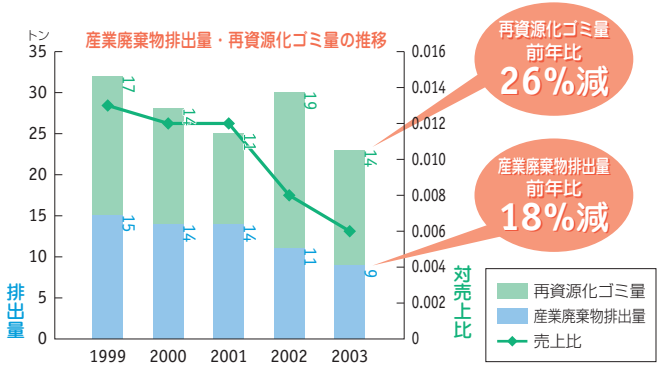
産業廃棄物の低減が社会的に大きな課題になっています。オプテックスでは自主目標を定め、積極的に低減活動を行ってきました。排出者の責任として全社を挙げて廃棄物の問題に取り組んでいます。

●主な実施事項



2003年結果

2003年度の廃棄物の実績は23トンで、前年対比23%削減することができました。この内、14トン（61%）は再資源としてリサイクルに出されました。残る産業廃棄物として処理されるゴミは9トンとなり昨年比18%削減することができました。対売上比からみても昨年比2ポイント削減ができました。今後更に総排出量の削減に加え、リサイクル比率を上げ、産業廃棄物として処理されるゴミ量削減に努力していきます。



活動の一例を紹介します

●●ゴミの分別

飲食する場所に、空缶、空瓶、ペットボトル、ゴミ箱をセットにして置き、社員のみならず来社された方にも分別廃棄の重要性をアピールしております。

産業廃棄物分別用ゴミ箱ブースです。産業廃棄物も捨てるときに分別する事により多くのものがリサイクルに回すことができます。

一般ゴミの分別用ゴミ箱です。ゴミ箱の色分けと捨てられる物一覧を掲示する事により一般ゴミの分別を行っています。

●●段ボール専用集積籠

段ボール類、雑誌・新聞類は専用の集積籠で収集し、リサイクルがしやすいように配慮しています。

●●ゴミ集積所

燃えるゴミ燃えないゴミも専用の倉庫を設置し、混入しないよう配慮しています。

●●コピー用紙再生ボックス

使用済みのコピー用紙で、裏紙として使用できるものとできないものを分別して収集できるボックスを設置しています。

グリーン購入により事務用品も環境に配慮

当社では1998年から「グリーン購入」に取り組んでいます。オフィスで使用する事務用品については2001年初頭より独自のカタログを作成し購入の促進を図って参りました。

2001年9月よりインターネット購買を開始し、購買事務の効率化を進めるとともに、グリーン品目の拡大を図りました。2003年末時点で購入対象品の80%（昨年比23%UP）がグリーン購入品になり、グリーン購入は着実に拡大しています。

グリーン購入　環境への負荷を考慮して商品やサービスを購入する活動。

社内で作成したカタログをもとにインターネットで購入します▲

環境コミュニケーション

企業が環境に関する様々な活動を行うためには、より多くのパートナーとのコミュニケーションが欠かせません。オプテックスは、独自の環境監視センサを利用して琵琶湖の状態を電光掲示板やインターネットで公開したり、環境報告書の発行、「びわ湖環境ビジネスメッセ」への参加などを通じて、環境情報の提供、開示に努めています。また、お客様からの情報、ご意見などを企業活動に役立てるほか、社内ネットワークでの環境情報の発信と共有化、環境教育の実施、地域活動の一環としてクリーン活動を行うなど社員の意識向上にも努めています。

クリーン活動

地域社会が豊かで住み良い社会にしていくことは当社の使命と考えております。その一歩として良き企業市民として役割を果たすため地域活動を行っております。

清掃活動は地元住民の方とのコミュニケーションと、社員一人ひとりの環境活動への参加意識向上の場となっています。

水質情報の提供

環境監視センサの社会への普及を通じて、地域の人々に水質情報を提供しています。

滋賀県当局の要請により、通産省の補助金をもとに世界で初めて透明度の自動測定を開発。湖への汚濁負荷の流入を少しでも減らすため「透明度」というわかりやすい指標で地域への協力を呼びかけています。

透明度自動観測システム

赤外線技術を応用し、水の透明度を自動測定する世界初のシステム。湖沼、ダム、河川、海域等の環境保全に役立てられています。

データは滋賀県庁前の電光掲示板に公表

環境教育

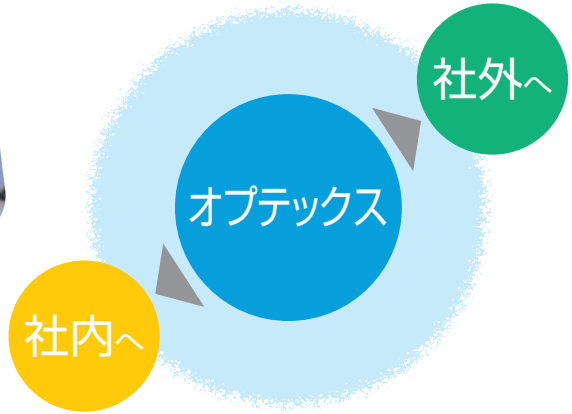
社内の環境教育の風景

環境管理活動の推進の原動力は社員一人ひとりの自覚に有ると考えています。私たちは自らが環境への意識と自覚を高め実行することが大切なことだと考えています。

環境教育は従業員·常駐して頂いている協力会社の方を含めて行い、意識の高揚に努めています。

2003年度の環境教育は、環境問題全般と我々を取り巻く環境情勢について学習を行いました。特に環境法令にスポットを当て、国内法令だけでなく海外の法令についても熟知することにより、環境に対するお客様の要請、市場の要求に素早く対応できるよう先々を予見できる力を身につけたいと考えています。

幅広い環境問題への対応には社員1人ひとりが適切な知識を持った上で行動していくことが必要です。私たちは一般的な環境問題から専門的な内容に至る環境教育が大切と考えています。



環境情報の共有化

社員の環境意識を高めるため、社内ネットワークにて環境情報の発信と情報の共有化に努めております。

社内の情報伝達は全て電子掲示板で行っています。

SENSE+ING

5

社会貢献活動

オプテックスは子どもたちの未来をいつも考えています

少し前までは当たり前の風景だった琵琶湖での水遊び。しかし最近では琵琶湖の水に触れたことのない子どもや若者が増えています。そんな子どもたちに必要なのは、楽しみながら自然と親しみ、たくさんの発見や感動を体験して感性を磨くこと、そして個性や創造力を伸ばし、社会性を育むこと。オプテックスでは自社が運営するアウトドアスポーツクラブ「オーパル」を拠点とした環境体験学習を実施しています。様々なメニューを企画し、遊びやスポーツを通じて琵琶湖や自然環境に直接触れる機会を地域の皆様に提供しています。

良き企業市民としての役割を果たすため、そして、未来を担う子どもたちに美しい自然環境を受け継いでいけるよう、オプテックスならではのアイデアで社会貢献しています。

「赤外線センサ」技術体験

自動ドアはなぜ開く?トイレの水が自動で流れるのはなぜ?日頃何気なく使用しているセンサとは何か、赤外線とは何かを、実験を通してわかりやすく解説します。

いかだ体験学習

子どもたちが自分でいかだを作って琵琶湖に出ます。材料は浮用パイプ、結束バンド、木材だけ。チームワークと創造力を養います。

ヨット体験学習

17フィート（約5m）の小型クルーザーに乗り込みます。「風」という目には見えないものを扱います。普段の生活では気づかない風を感じるために五感を研ぎ澄ます。

「ソーラーボート工作教室」

ペットボトルを使ったソーラーボートを作り、自然の環境によるエネルギー利用を身近に感じてもらいます。

「水をおもう」環境学習

世界で3番目に古く、約400万年の歴史を持つ琵琶湖と、世界各地の湖を比較しながら水質調査などの実験を行い、「きれいな水」とは何か、生物にとって住み良い水環境とは何かを考えていきます。

「出張カヌー教室」

滋賀県内の小中学校のプールを利用し、気軽にマリンスポーツを体験してもらいます。

ごあいさつ

世界的に環境への関心が高まっている中で、数多くの企業が環境管理活動に取り組んでおられることと思います。

地球環境の保全を考えた場合、製品の製造過程だけではなく、開発設計の段階から環境との調和を考えなければなりません。

オプテックスでは環境に優しい製品の開発を目指す一方、環境保全に直接役立つ製品も積極的に提供しています。一例として、琵琶湖に設置されている「透明度自動測定システム」は、人間の健康を顔色で判断するのと同様に透明度を水の顔色として測定し、随時、正確な水質情報を提供しています。

また、子会社のオーパルオプテックスを通じ、滋賀県内をはじめ、広く全国の小・中・高校に至るまでの各種学校及び団体に対して琵琶湖畔での水環境問題をテーマとした“びわ湖環境体験学習”を行っています。これはカヌーやヨットの体験、水をおもう環境学習など、琵琶湖の水や波、風に直接触れ、身近に感じられる総合的な環境体験プログラムです。

「環境こだわり県」として知られる滋賀県に本社を置き、琵琶湖畔で企業活動を行うオプテックスにとって、環境保全に対しては強い意識を持たなければならないと考えています。

私どもオプテックスは環境保全を常に自分たち自身の問題として受け止め、全社一丸となって考え、対処していこうと決意しています。

オプテックス株式会社
代表取締役社長
小林　徹

オプテックスが環境に関して

これまで取り組んできた活動と現状を

【SENSING】と題してこの１冊にまとめました。

まだまだ不十分なところや課題もありますが、

これからも製品づくり、環境に関する様々な活動を通じて

社会に貢献していきたいと考えています。

ご覧いただいたみなさまのご意見、ご要望をいただければ幸いです。

地球環境の未来を見つめるセンシング技術のオプテックスを

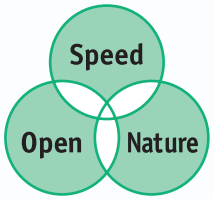
これからもよろしくお願いいたします。

新社屋完成のご案内

平成16年春、お陰さまをもちまして弊社新社屋が完成いたしました。この新社屋は、営業と開発を統合することによる『1.**スピードアップ**』、地域との共存を目指した『2.**オープンな空間の設置**』、人と地球にやさしい未来への創造企業としての『3.**自然との共生**』。以上3つを基本コンセプトとしまして、クリエイティブなレイクサイドオフィスを目指しました。

これからも変化を求め、チャレンジを続けることにより、更なる社業の発展に専心いたします。

コンセプト



Speed ＜スピード＞
- 社内コミュニケーションを醸成するインタラクティブ・オフィス
- 社会の変化に対応できるフレキシブル・オフィス

Open ＜オープン＞
- 社外への開放空間とセキュリティの共存

Nature ＜ネイチャー＞
- 立地を最大限生かす自然との共生空間
- 自然を生かした環境に優しい建物

オプテックスをより深くご理解いただくために、ホームページをご活用ください。「環境関連情報」も充実しております。

http://www.optex.co.jp/

ISO14001認証取得のあゆみ

1996年 1月	EMS事務局発足
1997年 5月	ISO14001認証取得 本社、技術センター
2000年 5月	第1回 認証更新
2002年 5月	東京営業所認証追加取得
2003年 5月	第2回 認証更新

OPTEX

対象範囲と対象期間

今回発行する「環境レポート2004 SENSING」は、本社、技術センター及び東京営業所における2003年度（2003年1月～2003年12月まで）の環境保全活動への取組みや内容を中心に、当社の事業概要を含めてご紹介をしています。

オプテックス株式会社

品質保証・CS室　〒520-0101　滋賀県大津市雄琴5-8-12
TEL：077-579-8000　FAX：077-579-7100
URL：http://www.optex.co.jp/　E-mail：info@optex.co.jp

R100
古紙含有率100%の再生紙を使用しています。

PRINTED WITH SOY INK
このパンフレットは大豆油インキを使用しています。

Waterless Printing Naturally
印刷は、アルカリ性現像液やイソプロピルアルコールなどを含む湿し水が不要な、環境にやさしい水なし平版印刷を採用しています。

発行／2004年3月